

実践記録 (小5・国語)

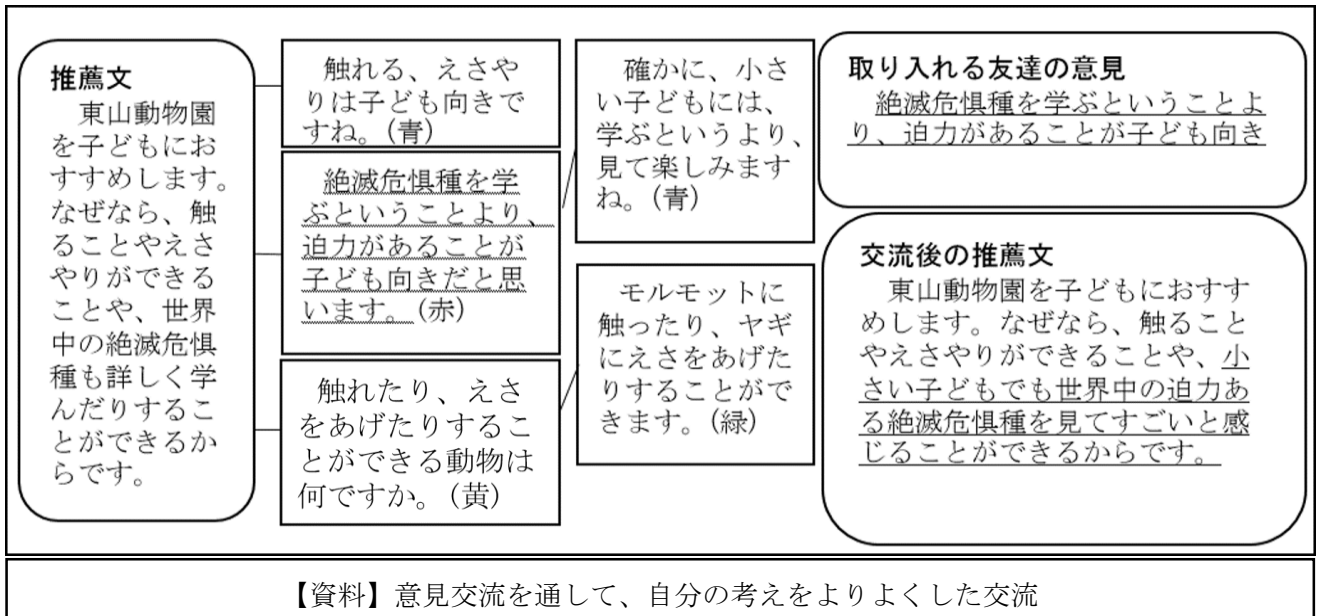
1 ねらい

意見交流を通して、友達の考えを取り入れて自分の考えをよりよくすることができる。

2 手立て

- (1) 課題に関連する情報を調べ、推薦文にまとめる。(最初の考え)
- (2) その推薦文を互いに読み合い、賛成意見は青、質問は黄、質問に対する答えは緑、反対意見は赤の付箋紙に書いて交流する。また、どの付箋紙に対して交流がされているのか線で結ぶ。(資料)
- (3) 付箋紙を使った交流から、自分の推薦文に取り入れる意見を選び、推薦文をまとめ直す。

(交流後の考え)



3 実践の様子

名古屋港水族館や東山動植物園は、子ども、大人、お年寄りといった様々な立場の人が訪れる中で、どの立場の人に推薦できるのかという題材で行った。最初に、調べたことから推薦文を書いた。次にその推薦文をグループで読み合い、意見に対し、賛成、質問、反対意見など立場を明確にして、付箋紙に互いの考えを書き出した。そして、その付箋紙を、線をつないでいくことで交流の流れが分かるようにした。

資料1の交流では、最初絶滅危惧種を学ぶことが子ども向けであるという推薦文に対して一人の児童が自分の経験から、「絶滅危惧種を学ぶことは子ども向きではないと思う。でも、迫力ある展示は、見てすごいと感じるから、そこは子ども向けだと思う。」と伝えながら反対意見の付箋紙を貼っていた。推薦文を書いた児童は、その意見に納得し賛成を表す付箋紙に「子どもは学ぶより見て楽しむね。」と書き出した。こうしたやりとりの中で、推薦文の中では児童は友達の意見を受けて、「見て楽しむ。」という言葉に変えて書き直した。

4 成果と課題

- 付箋紙を使うことで交流が活発に行われた。また、最後に自分の推薦文を書き直す際に、付箋紙の情報から活動を振り返ることができ、友達の意見を取り入れた推薦文に書き直すことができた。
- 今回の課題では、子どもにおすすめするという立場が多く、大人やお年寄りにおすすめする立場の意見が少なかったため反対意見が出にくい交流になってしまっていた。今後は、二者択一で賛成か反対か、立場が分かれやすい課題にすべきである。